NIE実践報告

1．タイトル　**情報のよりよい受け手になろう**

2．学校名

大阪府大阪市立天王寺中学校

3．実践者名（代表者名）

奥野直健

4．学年

第3学年

5．教科・領域名および受講児童・生徒数

社会科　141人（4学級）

6．単元（本時の学習課題）名

情報化社会の課題　~　見えているものはすべて真実か~

7．目標(狙い)

多くの情報の中にはウソの情報もあり、情報発信の難しさを体験することで、受けとった情報を選別して活用しなければならないことを学習する。

8．評価の視点

5W1Hなど必要な情報をどれだけ伝えられているか。情報がより強く正確に伝わるように画の構成を考えられたか。情報の受け手として注意しなければならないことに気づいたか。

9．年間指導計画における本単元の位置づけと時数
（または、単元展開および時数と本時の位置づけ）

公民的分野　現代社会と私たち（10時間）のうち　「IT社会の到来（3時間）」

10．単元（本時）の学習展開（含む時数）と留意点

①情報化社会の特徴・問題点を概観する（1時間）
②新聞やテレビの写真、4コママンガ、コマーシャルなどを比較する
画像で表現することによって、テキストよりも情報がうまく伝えわる点などについて考える。
画像による情報を受けとる側に注意すべき点はないか考える。
与えられたテキストを、4枚の画像で表現する。
（留意点~　簡単な絵でよいが、存在しないものを描くなどの作為はしてはならない。）
情報をより強く伝えるために画の順序や構成が大切であることに気づく。
情報を限られた中で伝えようとすると、つい作為がおこってしまうことを体験し、情報のなかにはウソが存在する可能性があることを知る。（本時）
③個人情報の保護など、IT社会のルールやマナーについて学習する。（1時間）

11．児童・生徒の反応、感想・意見

限られた時間など、制限のあるなかで、十分に情報を伝えられない生徒が多かったが、熱心に課題に取り組めた。
無批判にテレビや写真を見るだけではいけないことに気づいた。

12．成果と課題

4コママンガを例として用いたことで、動画のカット割りとの関連付けができ、情報伝達の順序・構成についても考えさせることができた。テレビに育てられているような現代の子どもたちにとって、目に映るすべてのものが存在していると思いがちであり、現実と虚構の選別ができるようになることは、メディアリテラシーの必須要素である。